

いふべし。労働會の本部にほうぼうの労働團體の協議會  
がありました。近頃の支部は、おふ人の事、遠くは大阪や九州あ  
たりから、わざわざ来て、私共のストライキに手傳ふこと  
に、けつぎしました。そして、今、おふ人は、押上ぐらゐで、演説會を  
むらぎあしたの二時半には、東京中の労働團體の人達が  
會社の横を、ぐるぐるとして、私共におうえんする事  
になつてゐます。これを手はじめに、方方で演説會を  
むらぎます。中には、二十四日は、神田の青年會館で、大演説  
會をやつて、日本中の労働者のために、東京中の労働團  
体が、きつと勝つて見せると、云々、力こぶを入れて居ります。  
それから、皆さんも安心して、じつかりとやつて下さい。それ  
で、會社では、小山から、男工をつれて来ると云ひます。これ  
と、おふ人の事は、なんでもありません。もし、おふ人の事を  
したから、それと、大差が、ある。方方の労働團體  
が、来る。面白い事になり、す。皆さんは、何人でも、か  
わらないから、會社の、おふ人、と、おふ人、といつても、おふ人、な  
い。さで、じつかり、たのみます。皆さん、今日、會社へ、おなじみ  
の、平塚ら、いちごう、さんが、あな、た、方、のために、行かれました。  
おした、からは、山、川、さ、く、ま、さん、も、市、川、ふ、さ、え、さん、も、  
和、田、う、み、よ、さん、も、みんな、會社へ、おし、か、けて、あな、た、方、  
のため、又、命、度、の、ストライキ、のために、力を、そ、へ、て、下、さる  
よう、になつて、居ります。

大正九年七月十日